



講座のアピールポイント

獨協医科大学リハビリテーション科は昭和49年4月に我が国初のリハビリテーション医学の講座として誕生しました。

設立以来40数余年の長きにわたり、疾病中心ではなく、全人的医療の精神に基づき、ノーマライゼーションの理念の実現に向け、リハビリテーション医学一般について総合的に診療、研究を行っています。

臨床面では大学附属病院の特色を生かした、各種疾患に対する超急性期からのリハビリテーション医療に積極的に関与し、また生活期（慢性期）には医療相談部と連携した地域、在宅、社会復帰援助に取り組んでいます。

リハビリテーション医学分野を中心として、他診療科、他施設と連携した学際的な共同研究に力を入れています。

講座研究紹介

リハビリテーション医学自体の特徴から、当講座の研究内容は多岐にわたっています。

主にヒトを対象とした研究が主体となります。

1. リハビリテーションを行うときの筋活動についてMRIを用いてその活動を判定評価。
2. 脳卒中患者のリハビリテーション治療と栄養状態と機能回復、ADL、QOLとの関係
3. 磁気刺激に代表される非侵襲的脳刺激とリハビリテーション訓練を併用した障害機能回復
4. 嚙下時の脳波から脳内での神経伝達の様子を探究
5. リハビリテーション科医と習熟療法士による脳卒中積極的リハビリテーション医療の研究（他施設連携研究）
などを行っています。

最近では動物研究としてマウスを用いた、脳内物質と筋萎縮との関係なども他施設と連携して進めています。